

台灣日語學習者的使役表現指導

馮 寶 珠

輔仁大學日本語文學系助理教授

中文摘要

台灣針對日語學習者，目前大多以文法指導為主流，很少有針對會話課及讀本課之指導法發表相關論文。再者，使役表現不僅第二外語之日語學習者不易掌握，就連日語系的學生也很難掌握其用法。基於上述理由，本論文擬從第二外語習得的觀點，並以讀本課及會話課之指導法為例，探討及分析日語使役表現，並嘗試提出使役表現的指導法。

關鍵詞：會話課指導、讀本課指導、第二外語習得

台湾日本語学習者に対する使役表現 の指導

馮 寶 珠

輔仁大学日本語文学系助理教授

要 旨

台湾の日本語学習者に対して、これまでの指導は主に文法授業を中心にしたものが多いが、会話授業と読解授業の指導に関してはそれほど多くないようである。また、使役表現は日本語を第二言語として習う学習者は言うまでもないが、日本語学科出身の学習者でさえも使いこなすことは難しいので、本稿では第二言語習得の観点から会話授業と読解授業の指導を例にし、使役表現の統語的特徴と制限を分析し、その指導法を提案してみよう。

キーワード：会話授業指導、読解授業指導、第二言語習得

Teaching causative expressions to Taiwanese Students negative sentence

Ferng Bow-Ju

Fu Jen Catholic University College of Department of Japanese
Language and Literature

Abstract

In Taiwan, a great deal of effort has been made to find appropriate methodologies for teaching Japanese grammar to Taiwanese students. However, there has been little attempt to introduce effective techniques for teaching conversation and reading in Japanese. Furthermore, not only students learning Japanese as a second language at elementary and intermediate levels, but those majoring in the Japanese language, often fail to grasp causative expressions.

For the above reasons, this paper focuses on causative expressions and their syntactic function in Japanese from the viewpoint of second language acquisition in the Japanese language. Here, a teaching method for conversation and reading in Japanese is presented.

Key words : teaching method of the conversation , teaching method of the reading lesson ,
second language acquisition

台湾日本語学習者に対する使役表現の指導

馮 寶 珠

輔仁大学日本語文学系 助理教授

1.はじめに

台湾の日本語学習者に対して、これまでの指導は主に文法授業を中心にしたものが多いが、会話授業と読解授業の指導に関してはそれほど多くないようである。また、使役表現は日本語を第二言語として習う学習者は言うまでもないが、日本語学科出身の学習者でさえも使いこなすことは難しいので、本稿では第二言語習得の観点から会話授業と読解授業の指導を例にし、使役表現の統語的特徴と制限を分析し、その指導法を提案してみよう。

2.第二言語習得の観点から見た日本語授業の指導

2.1 第一言語と第二言語との関係

両親から学んだ最初の言語を「第一言語」または「母語」¹といい、その言語がその社会で生活及びコミュニケーションの手段として使用される際の言語を「第

1 両親から学んだ最初の言語が母語であるのに対して、母国（国籍がある国）で最も多く使用されている言語を母国語という。

二言語」²という。

第一言語習得と第二言語習得の関係を考えるのに、例えば台湾人が第一言語である中国語を習得した大学生の段階で、第二言語である日本語の学習しているケースを想定してみよう。第一言語の習得と第二言語の習得の間には、どのような影響関係があるかという問題に対して、以下のことが考えられる。

大学生の場合も、第一言語の読み能力が優れている場合、第二言語による読みの能力も優れる傾向にあること、また書きにおいても同様の傾向があることが示されている。成人においても第一言語の下で既に形成されている概念（例えば、文法規則など）やその概念操作が第二言語を習得する際に、それら概念及び概念操作の上に第二言語のラベルが貼り付けられるという構造は引き継がれていくと考えられる。

2.2 第二言語習得研究と日本語指導

第二言語の習得研究においては、研究成果をどのように生かすかは重要な課題であり、決まった習得段階を飛び越えて教えることは習得に結び付かないと主張する考え方（Pienemann1989）もあれば、難しい項目を教えると易しい項目は自然に習得されるとする考え方（Zobl1983）もある。また、小林（2001）は、日本語授業における学習者の誤用を分析し、効果的な練習方法を考えた上で、学習レベルに応じて学習すべきことの重点を変化させるカリキュラムを提案した。つまり、学習が進むにつれて、短い短文から長い複文や慣用句の使用へ、そしてさまざまなムードや語用論で扱われるような表現などへとカリキュラムの重点とその変化を指摘した。

最後に、日本語教師の指導において、以下の方法を考えてみたい。

（1）学習者中心の視点で、教材や文型練習やタスク活動などに気配りができ

2 第二言語とは目標言語圏（目標の言語が一般的に話されている国々）以外の国で、学校教科や学問の一部として学ぶ際の言語を指す。

る教授法。つまり、常に学習者の状況を見ながら、その時、その場面に合った授業を展開させる。

(2) 学習者の誤用から学び、研究成果を生かす教授法。つまり、日本語指導の現場から問題を取り上げ、教師自身がその改善を目指してさまざまな試みと研究を行うことによって、アクション・リサーチ³にも発展させることができる。

(3) 授業を楽しむ教授法。学習者たちは日本語母語話者が考えもしないような発想の質問をし、このような質問も調べてみると意外な発見があり、学習者と一緒に日本語教師も日本語の知識を増やすことができる。また、学習者が望む「楽しい授業」とは、必ずしもゲームばかりの楽しさではない。そして日本語教師が学習者の質問や誤用から自らも学び、その過程を楽しめることは、授業においても学習者を受容する雰囲気作りに大きく影響すると思われる。

以下に使役表現の統語的特徴と制限を分析し、会話授業と読解授業の指導法を提案してみる。

3.使役表現の種類

3.1 許容・放任

元来動作者だけでは行い得ないことについて使役者が許可を与えた結果、動作主の意思通りにそれが実現される意を表すものである。また、動作主の行為を黙認するより、むしろ放任という意を表すものである。

3 アクション・リサーチとは、教師が教室の内外から問題点を抽出し、その改善を目的として行うシステマティックな研究調査であり、そのプロセスによって教師は自己成長していくと考えられる。詳しくは、横溝（2000）を参照されたい。

(親がいいよと言って、) 子供に公園で遊ばせた。

(親が見て見ぬふりをして、) 子供を公園で遊ばせた。

本人の希望を入れて、日本に留学させた。

3.2 使令・指令

使役者が動作主にある行為を命令または要求をし、そうするようにしむける意を表すものである。

犯人は銀行員に現金を用意させた。

先生は罰として嫌がる子供に歌を歌わせた。

3.3 誘発

動作主に対し直接命令を下したりはしないが、動作主の行う行為が使役者に何らかの結果をもたらすという関係にあるものである。

息子がさり気ない行為で親を悲しませた。

お世辞を言って彼女を喜ばせた。

3.4 許容使役

動作主の欲求を実現させるために使役者の許可を求めるという形式をとった表現であるが、実際には使役者の承認の有無など無視している場合が多いものである。

すみませんが熱があるので、早退させてください。

3.5 例外的な使役動詞

3.5.1 見る／見せる（○） 見させる（△）

例：宿題は必ずお母さんに見せなさいよ。

説明例：日本人は普通「見させる」という使役動詞を使うより、「見せる」という使役動詞をよく使う。

3.5.2 起きる／起こす（○） 起きさせる（△）

例：母親は毎朝八時に子供を起こします。

説明例：日本人は普通「起きさせる」という使役動詞を使うより、「起こす」という使役動詞をよく使う。

3.5.3 着る／着せる（○） 着させる（○）

例：母親は子供に服を着せた。

母親は子供に服を着させた。

説明例：「着せる」という使役動詞を使う場合は、「母親が子供に服を身につけさせて、母親の手で着る動作を実行した」という意味合いを持っている。しかし、「着させる」という使役動詞を使う場合は、「母親が子供に服を着るように命令し、その命令に従って子供が自分の手で服を着た」という意味合いを持っている。従って、「母親は人形に服を着させた」という文は許容されないが、「母親は人形に服を着せた」という文は許容される。

3.6 誤用例

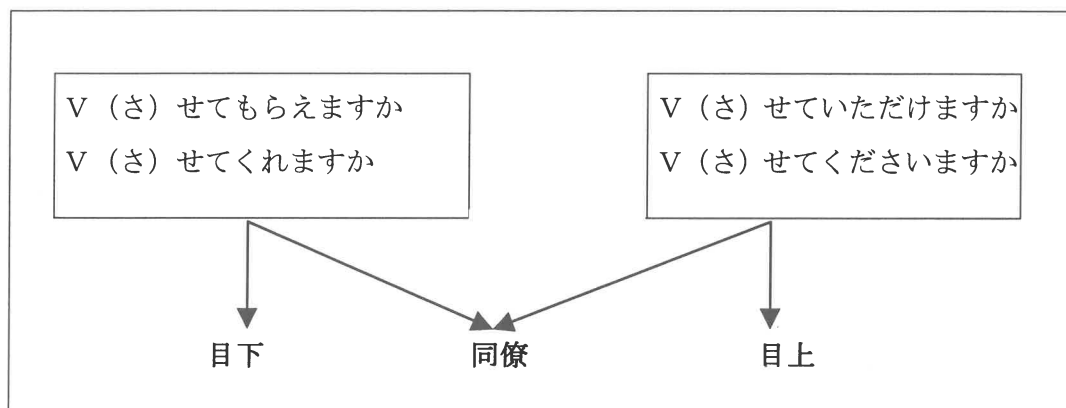
×学生は先生に住所を書かせました。

→先生に住所を書いてもらえますか。

→先生に住所を書いてくれますか。

説明例：目上の動作者に依頼や動作を促す時には、語用論的な観点から見れば、

「させる」構文の代わりに「～てもらう」構文で言い表すほうがより適当な表現である。ここでは、日本社会の一般的な人間関係（上下関係）について簡単に説明する。相手によって表現を変えなければならないことを理解させる。



例 1: (目上に対して)

パーティーへ行かせていただけませんか。

例 2: (目下に対して)

そのガラスのハイヒールを見せてもらえませんか。

<指導上の注意点>

1. わかりやすい図表や板書などによって、使役動詞の用法と動作の方向を理解させる。
2. 使役動詞の用法を理解した後、使役の意義や用法、種類について説明する。

4. 会話授業の指導

4.1 学習の流れ

基本的に以下に挙げた「学習の流れ」に沿って指導するが、学習者の年齢や職業、習熟度により変更または補充が必要であると思われる。例文は、学習者の生活環境（学生ならば学校関係、社会人ならば会社関係などから題材をとる）にあった具体的なものにする。

第一段階 使役表現の文型を提示する

第二段階 提示した例文を学習者に練習させる

第三段階 使役表現の種類を提示する

第四段階 日本の一般的な社会生活における上下関係を理解した上で、教室活動を行い、学習者の理解を確認しながら進行したり、応用会話を練習させたりする。

4.2 学習段階とポイント

学習目標：使役表現を学ぶ

内容：相手に命令または要求をし、相手がその命令や要求に応じた行動について学ぶ

重要単語：せる、させる、待遇表現

4.3 第一段階 使役表現の文型

文型 1：（使役者）は （動作者）に NをVt（さ）せる （他動詞）





継母は シンデレラに 掃除をさせる

文型 2：(使役者) は (動作者) を Vi (さ) せる (自動詞)

継母は シンデレラを 泣かせます

(1) 絵カードや図表により、使役表現の方向と人物の関係を説明する。

中国語にはない表現は生徒が混乱しやすいので、できる限り視覚による確認・理解ができるようにする。

他動詞	自動詞
<p>シンデレラは掃除をします。</p>  <p>掃除をする</p>  <p>母はシンデレラに掃除をさせます。</p>	<p>シンデレラは泣く。</p>  <p>泣く</p>  <p>継母はシンデレラをいじめて、泣かせます。</p>

(2) 格助詞「に」「を」が理解されにくいことがあるので、他動詞と自動詞は別々に教えた方がよい。

<誤用例>

× (継母は) シンデレラを暗い森を歩かせます。

→ (継母は) シンデレラに暗い道を歩かせます。

説明例：二重の「ヲ」格が文中に現れないという制限によって、文が不適格となっている。

4.4 第二段階 使役表現の文型練習

4.4.1 使役表現の交換練習

目的：生徒に使役表現の動作方向を理解させる。

進行方法：

1. スライドや絵カードで先に例文をあげる。
2. 教師と代表者一名により先に例を示す。
3. 役割を交換しながら次々に各生徒に練習させる。
4. 以上のようにして使役表現の練習をする。

使用教材：できる限り教室の中にあるもの（生徒が日常よく目にするもの）を使用する。教科書やノート、鉛筆やボールペン、かばんなど。

4.4.2 指導上の注意点と学習目標

1. できるだけ図表や絵カードなどの視覚教材を併用し、学習者に使役表現を理解させる。
2. 「～は～をVi（さ）せる」「～は～にNをVt（さ）せる」の文型を覚えさせる。
3. 使役動詞の交換がスムーズにできるようにする。

4.5 第三段階 使役表現の種類

4.5.1 許容・放任

A：たかしさんの子供はテレビゲームをやっていますか？

B：勿論、でも宿題が終わったらやらせます。一日30分だけ。

4.5.2 使令・指令

A：うちの子供は人参が嫌いなの～

B：うちもそうなんですけど、でも必ず食べさせています。

4.5.3 誘発

A：タバコを吸わない？

B：私は親を心配させるようなことはしません。

4.5.4 許容使役

A：あの…先生、すみませんが、来週の金曜日姉の結婚式があるので、早退させていただけませんか。

B：分かりました。いいですよ。

- (1) 第一～第三段階を復習する。前段階の学習が定着していることを確認する。
- (2) 文型の学習の際には、絵カードや図表を使って、使役表現の使い分けを理解させる。必要があればビデオを見るなど、日本人の人間関係と言語表現について理解を深める。

4.6 各段階に共通する学習の流れ

(1) 文型、文法の学習

(2) 図表や絵カードの使用

1. 人物の絵が入った絵カードなどを使用して、動作の方向を説明する。
2. 目で見て理解する。つまり、教師と学習者により、実際に使役表現の状況を演じ、各学生に答えてもらう。ビデオなどを利用してもよい。日本社会の習慣やマナーなども合わせて学習する必要があるため、視覚教材を用いると効果的である。

(3) 例文

1. できるだけすでに学習済みの単語を用いた例文をあげる。新しい単語を次から次に紹介すると学習者の負担が大きい。
2. 生徒に余裕があれば、いくつか関連する名詞や表現を教えてもよい。日常生活でよく使う単語に限る。特殊な流行語などは避けるべき。
3. よく見られる誤用例をあげる。誤用例を学ぶことによって、あらかじめ間違いを防ぐことができる。

4.7 会話の指導

以下は教科書以外の教材使用例であり、時間がある場合或いは学生の要求がある場合、教師が必要を感じた場合は教科書以外の会話文を読んだり聞いたりする。例えば、ビデオやテレビドラマ、漫画など、見て理解する教材を使用する。実際の日本人の会話、学生の年齢や生活環境、職業に合った教材を選ぶといい。日本以外の地域で学習する生徒には、ビデオなどで日本人の生活や実際の会話を知ることが重要であり、思い込みや先入観を防ぐことができる。

4.7.1 応用会話

春子：あの一、すみません、課長。今日は早く帰らせていただけませんか。家にちょっと用事がありまして…

課長：またあなたですか。今回の言い訳は何ですか。

春子：今日は本当なんです。お母さんが突然入院してしまって、お父さんが海外へ出張してて、看病する人がいなくて。

課長：お父さんはもう退職ではなかったかい。もうあなたの言葉は二度と信用しませんから、早く出て行きなさい。…あーちょっと、これ、明日までに入力しなさい。

(1) 単語の意味を確認

単語の意味を一つ一つ丁寧に説明する。品詞や用法についても、学習者のレベルに合った指導をする。用法解説が複雑すぎると学習者の混乱を招くので注意すべきである。

(2) 文法や内容の理解

本文を読んで、文法の解説、内容に関しては十分に時間をかける。内容が理解されていないければ、会話練習の意味がないので、文化的背景についても疑問点がなくなるまでよく説明する。

(3) 正確な発音

会話文の意味や内容、登場人物の関係などがよく理解されたら、読みに入る。教師といっしょに読むことにより、まず正しい発音を学ぶ。

(4) 練習問題

会話文に会わせた練習問題で内容の理解を深める。

会話文をよく読んで下の質問に答えなさい。

1. 課長はどうして春子さんを残業させたのですか。

以上のような質問によって、学習者が内容を理解したか、動作の方向、動詞の用法を理解しているかを確認する。

(5) 指導上の注意点

1. 登場人物が二人いることを確認し、二人の上下関係を理解する。
2. 「あーちょっと」のような会話の進行に必要な接続詞はよく練習する
3. 会話練習を通して目上の人や先輩との会話の仕方を身につける。
4. 以上の練習問題の後、グループごとに会話の練習をする。

4.8 教室活動

4.8.1 指導上の注意点

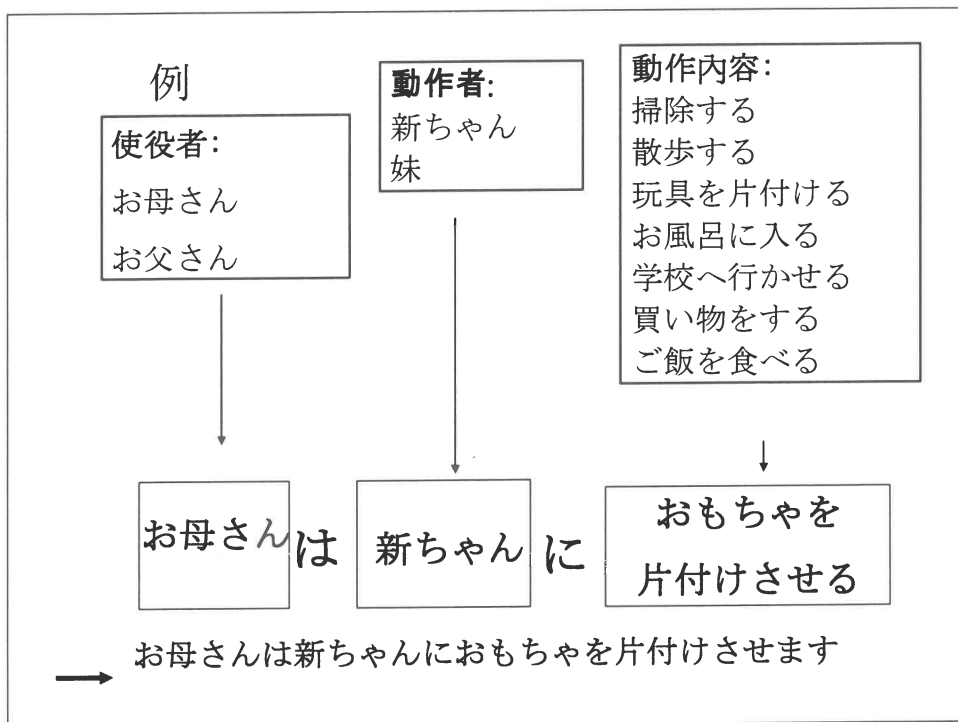
- (1) 生徒のレベルや授業時間のゆとりを考慮した上で、教科書の内容の復習をかねた教室活動を行う。教科書の会話文を読むだけでなく、実際に会話をする練習をするのが望ましい。
- (2) グループごとに実際の場面を想定して会話練習を行う。想定する場面や状況は、一般的で実用性の高いものであることが望ましい。
- (3) 復習を兼ねた質問により、学習者の習熟度や問題点を確認し導入する。
- (4) まだ理解していない生徒がいる場合は、簡単な図を板書して再度説明する。

4.8.2 教室活動の手順例

- (1) グループごとに絵カードかプレゼントを実際に用意する。
- (2) 絵カードまたは使役表現のやり取りを会話で表現する。絵カードを使うか、代表者による実演で模範例を示す。間違いが見られる時はここで正す。
- (3) 人数が多い場合は、代表グループに実演してもらおう。会話の中に誤りがあれば正す。
- (4) 会話を書き取ったり宿題として提出させたりする。

4.8.3 応用練習

クレヨン新ちゃんを例にして、以下のように使役文を完成させる。



4.8.4 宿題

以下の会話文を挙げ、学習者に文を完成させたり宿題として提出させたりする。

宿題 1

<レストランで食事を終えて>

先輩：ここは私が…。

後輩：いつもご馳走になっているので、今日は私に_____（払う）。

先輩：そう。後輩に_____（おごる）ちゃって悪いけど。

後輩：いいえ、そんなこと。

先輩：今日はごちそうさま。

宿題 2

<会社の受付で>

来客：契約のことで参りました。部長は、お戻りでしょうか。

秘書：10分ほど戻る予定ですが。

来客：それでは、ここで_____（待つ）。

秘書：ええ、どうぞ。

宿題 3

<不動産屋で>

不動産屋：このアパートは、いかがなさいますか。ほかに借りたい方もいらっしゃいますので、そろそろ…。

客：もう一度、回りの環境を確認したいので、あと1日_____（検討する）。

宿題 4

<電気店で>

客：ビデオの修理、今週末に間に合いますか。

店員：明日から、3日間にわたり、工場の方は_____（休む）ので、来週になります。

5. 読解授業の指導

5.1 学習の段階

(1) 短い文章を読み、文法の解説をする。長文の読解に入る前に、短文学習

により文法を確認する。

(2) 練習問題

(3) 物語や文章を読む(単語の解説): 文法学習、新しい単語の解説のあと、読解に入る。

(4) 内容の理解と翻訳: 内容をよく理解させ、翻訳する。上級の場合は母国語に翻訳するのではなく、日本語で理解するのが望ましい。

(5) 使役表現についての説明: 使役表現、人物の上下関係についてよく説明する。

(6) 宿題: 授業後の課題をこなすことによって、学習内容を定着させる。

5.2 短い文章の読解

長文読解の前に、短い文章を読む。文法学習と同時に日本語の文章の形式について学ぶ。

(1) 初級の学習者には物語の読解はかなり難しいので、始めは以上のような身近な生活に題材をとったものがよい。実用性も高い。

(2) 学習ポイント(使役表現)を強調する。

(3) 短い文章を読み、文法の解説をする。始めに例文を挙げて、文法学習を行い、すでに学習済みの場合は復習する。

学習目標:

1. 文章中に表れる使役表現の語感を学ぶ。
2. 文章中に表れる使役表現の用法を学ぶ。

シンデレラ

シンデレラはお父さんが死んだ後、召し使いのような日々を送ってきました。継母がシンデレラに家中の全ての家事をさせるのです。ある夜、シンデレラがパーティに出席しました。

魔法使いのおばあさんとの約束の時間になっても王子様はシンデレラを帰らせたくありませんでしたが、シンデレラは12時の鐘の音が終わる前までに帰らなければならなかったのです。王子様のお城を走り出しました。あまりにも急いでいたので、シンデレラのガラスの靴は脱げてしまい、お城に忘れられていました。シンデレラの名前を聞くのを忘れていた王子様は、そのガラスの靴を手がかりにシンデレラを探すことにしました。

<文法解説>

動詞の第一変化（未然形）＋使役助動詞「せる／させる」

1. 五段動詞（V1＋せる） 例：言う→言わせる
2. 上・下一段動詞（V1＋させる）例：見る→見させる 教える→教えさせる
3. カ行動詞：くる→こさせる
4. サ行動詞：する→させる

文型1：（使役者）は	（動作者）に	NをVt（さ）せる	（他動詞）
お母さんは	子供に	人参を食べさせます。	

文型2：（使役者）は	（動作者）を	Vi（さ）せる	（自動詞）
お母さんは	子供を	朝早く起きさせます。	

1. 助詞「に」と「を」の違いと用法をここで説明する。
2. 文章中の文を例文にする。

3. 「誰が」「誰に」 どのような動作を行うのかを強調し、動作の方向と助詞の用法を定着させる。

(2) 再読し、内容に対する理解を更に深めると共に、使役表現を理解する。

(3) 練習問題 *解答あり

「シンデレラ」について、文章の内容と合っていれば○、違っていれば×をつけなさい。

1. () シンデレラが毎日お嬢さんのような楽な毎日を過ごしています。
2. () シンデレラが王子さまと朝まで楽しく踊りました。
3. () シンデレラが毎日ピアノの練習をしなければなりません。
4. () 家中全部の掃除はシンデレラ毎日の仕事です。
5. () シンデレラがお城にグローブを忘れ物しました。

1. 自分が文章中の主人公になったつもりで、指示に従って短文を書く。
2. 繰り返し書くことによって、使役表現を身につけるとともに、文章力も養う。

5.3 物語や文章を読む（単語の解説）

短い文章を読んだら＜花咲じいさん＞という長文読解に入り、まず新しい単語の意味や用法を説明する。

学習目標：

1. 物語の読解を通して、日本語による表現方法を具体的に学ぶ。
2. 日本語の文章作法一句読点の位置や改行などを学ぶ。
3. ユニークな口語や擬態語、擬音語などの使用により、学習者の日本語に対する関心を高める。

4. わかりやすい昔話を読むことを通して日本文化に触れることにより、学習者の日本文化と日本語に対する関心を高める。

5. 日本の社会や文化に対する理解も重要である。

花咲じいさん

むかしむかし、ある所に、二人のじいさんが隣り合って住んでいた。一人は、働き者、もう一人は怠け者のじいさんでした。働き者のじいさんのところに、犬が迷い込んできました。子供のいない老夫婦はシロと名づけ、かわいがりました。ある日、山へ行く時、シロは「ここを掘ってみてくれ」と言いました。じいさんが言われたとおりに掘ってみると、大判小判がざくざく出てきました。

家へ帰って、ばあさまと眺めていたら、隣のばあさまがやってきていろいろ尋ねました。まじめなじいさんが、シロに連れてもらって行った話をしたら「その犬を一日貸してくれ」と頼んできました。隣のじいさんはシロを借りて、聞いたとおりに山へ行ってシロが座り込んだところを掘りました。すると、蛇やむかでが出てきました。怒ったじいさんは、「よくもこんなところを掘らせた」と怒ってシロを叩いて死なせてしまいました。そこにシロを埋め、柳を一本さして帰ってきました。

その話を聞いたまじめなじいさんは、大変悲しんで、次の朝、山へ行ってみました。すると、柳の枝は大きな木になっていました。犬の思いにと思って、その木を切って臼を作りました。臼を使って米を粉にしていると、大判小判がさらさら出てきました。これを聞いた隣のばあさまが、臼を借りて使うと、牛のふんが落ちてきました。じいさんは、怒って臼を叩き割って燃やしてしまいました。それを知った働き者のじいさんは悲しんで、「せめて燃やした灰を」と言って持ち帰りました。

じいさんが、死んだシロのことを心から嘆き悲しんでいると、どこからともなく風が吹いてきて、灰を吹き上げました。すると桜の木には桜の花が、梅の木には梅の花が咲きました。そこへ、殿様の行列がきて、「これはめずらしい、じいさん、その枯れ木に花を咲かせてみよ。」と言われました。するとどうでしょうか。枝

という枝に花が咲いたのです。殿様は喜んでさくさんごほうびをくださいました。

それを聞いた隣のじいさんは、また、同じように灰を集めました。しかし、花が咲くどころか、殿さまの目に灰が入って、殿様を怒らせてしまいました。そして、殿様に縄で縛られてしまいました。おしまい。

<指導上の注意点>

1. 学習ポイントの使役表現を強調する。
2. 一篇の物語を読むことによって、学習者の自信を高め、満足感を与える。
3. 日本語特有のユニークな語感を持つ擬態語や擬音語などの使用により、学習者の関心を高め、意味や用法もしっかり理解させる。
4. 日本文化に触れることによって、学習者の日本文化や日本語に対する関心を高める。
5. 自国の文化との比較によって理解を深めるとともに、学習者の日本文化や日本語に対する関心を高める。
6. 日本語の文章作法について学ぶ。

<新しい語彙について>

1. 新しい単語の意味や用法をよく説明する。
2. 動詞と格助詞はペアで教えた方がよい。「～を解ける」「～を拭く」など。
3. 日本語特有の擬態語や擬音語、副詞は特によく説明する。
4. 関連した語句を教えてもよいが、多すぎないようにする。
5. 日本の文化や風俗に関する情報も提供し、学習者の日本文化と日本語に対する興味を高める。

5.4 内容の理解と翻訳

内容をよく理解させ、翻訳する。上級の場合は母国語に翻訳するのではなく、日本語で理解するのが望ましい。

5.5 使役表現の種類

5.5.1 許容・放任

弟は水泳が大好きですので、母は弟にプールへ行かせる。

娘が外で遊びたいと言ったので、母が自分の娘に遊ばせます。

5.5.2 使令・指令

弟は水泳が大嫌いですが、母は弟をプールへ行かせる。

シンデレラがパーティーへ行きたいと言っても、継母はシンデレラを行かせません。

5.5.3 誘発

フェアリーは突然出てきて、ネズミをビックリさせました。

パーティーでシンデレラはとても綺麗なドレスを着て、継母を困らせました。

継母はパーティーのために綺麗なドレスを準備して、お姉さんたちを喜ばせました。

5.5.4 許容使役

今日体の調子が悪いので、早く（私を）帰らせていただけませんか。

母が危篤になったという知らせが来たので、今日はもう帰らせてください。

5.6 宿題

以下の文章を挙げ、学習者に文を完成させたり宿題として提出させたりする。
授業後の課題をこなすことによって、学習内容を定着させる。

宿題 1

<大晦日の大掃除>

12 月の終わりは日本ではお正月の準備でみんな忙しくなります。田中さんのうちでも、奥さん一人では無理なので、うちの人みんなが手伝います。

奥さんは子供には部屋を_____（かたづける）たり、窓を_____（ふく）たりします。ご主人には車でいっしょに買い物に行ってもらいます。そして、奥さんは家族のために、一生懸命おいしいお正月料理を作ります。

宿題 2

<いちごケーキの作り方>

いちごは水に_____（くぐる）て軽く洗う、水で_____（しめる）てふきんをかぶせておく。スポンジケーキにブランデーを_____（ふくむ）。いちごを 5、6 個つぶして、スポンジケーキにもいちごの色を_____（しみこむ）。(中略) できあがったら、新鮮さを_____（ながもちする）ために、密封して冷蔵庫で冷やしておく。

宿題 3

<会社の新人教育の方針>

わが社では、経営を_____（安定する）ために、適性の高い人材を確保し、早くから責任のある仕事に_____（つく）。取引先との交渉にも一人で_____

_____（行く）。

問題が生じたら、上司がすぐ解決に走るのではなく、本人に_____（考える）、自分で_____（解決する）ようにしています。つまり、能力を（発揮する）られるような環境作りを目指しています。

参考文献

Zobl (1983) Markedness and the projection problem. *Language Learning* 33

Pienemann, M. (1989) Is language teachable: Psycholinguistic experiments and hypotheses. *Applied Linguistic* 10

岩淵匡「「（ら）れる」「（さ）せる」の意味の関係について」『講座日本語教育 9』早稲田大学言語教育研究所編、1974

阪田雪子「使役を表す言い方、せる・させる」『教師用日本語教師ハンドブック 4 一文法Ⅱ』凡人社、1980

佐藤里美「使役構造の文—人間の人間に対する働きかけを表現する場合」『ことばの科学・1』むぎ書房、1986

早津恵美子「有対他動詞と無対他動詞の違いについて」『言語研究』95、1989

言語学研究会・構文論グループ「なかどめ—動詞の第二なかどめのばあい」『ことばの科学2』むぎ書房、1989a

言語学研究会・構文論グループ「なかどめ—動詞の第一なかどめのばあい」『ことばの科学3』むぎ書房、1989b

長友和彦「第二言語習得における意識化の役割とその教育的意義」『言語文化と日本語教育』第9号、お茶の水女子大学日本言語文化学会、1995

田中真理『ヴォイスに関する中間言語研究』平成7年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書、1996

馮寶珠『日中両語における使役表現の対照研究』東京外国語大学平成 5 年度修士論文、1994a

馮寶珠「日本語の使役表現について」『台湾日本語文学報』6 号、1994b

馮寶珠「日本語の「させる」使役構文について」『日本語の研究と教育—窪田富男教授退官記念論文集』専門教育出版、1995

馮寶珠『日中両語における使役表現の対照研究』東京外国語大学平成 10 年度博士論文、台湾致良出版社、1999 提出 2001 年出版

馮寶珠「日本語の「させる」構文の表され方について」輔仁大学日本語学科編『日本語日本文学』26 号、2001

横溝紳一郎『日本語教師のためのアクション・リサーチ』凡人社、2000

安藤節子など『日本語文法演習：自動詞・他動詞、使役、受身—ボイス—』スリーエーネットワーク、2001

小林典子など『日本語学習者の文法習得』大修館、2001

岡崎敏雄など『日本語教育における学習の分析とデザイン—言語習得過程の視点から見た日本語教育—』、凡人社、2001

迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』、アルク、2002